

(13) 学校改築の推進

整理 No	13	評価単位名	学校改築の推進			
担当課	学校運営課	評価責任者	学校運営課長 鈴木さよ子	担当係 グループ名	学校施設係	

事業の目的・目標

目的/ 根拠法令等	各学校(園)が教育目標や教育ビジョンを達成するため、教育環境をより充実したものにす
目標	老朽化が進んでいる学校施設を計画的に改築する

目標に対する達成見込み

達成度指標	算定式等指標の説明	ベースライン (19年度)	20年度 見込み	ベースラインに 対する 達成見込み	目標値	目標設定の考え方
					(達成年度)	
改築が済んでいる学校数	改築が済んでいる学校	3校	0	100%	3校 (H18)	豊島区立小・中学校の適正化第一次整備計画により改築を行った。
改築基本計画策定数	小・中学校前期改築計画数	-	1校	100%	6校 (H29)	学校改築計画に基づき、老朽化が進んでいる学校を計画的に改築工事を行う。

主な取り組みと事業をとりまく社会状況

事業内容	西池袋中学校の建替えを改築計画に基づき、滞りなく推進する。				
運営形態		委託の内容			
	主な取り組み内容	平成17年度	平成18年度	平成19年度	事業をとりまく社会状況
	1 「西池袋中の改築等を考える会」開催 2 学校説明会 3 目白、西池中、池袋第二小、文成小、池袋中、巣鴨北中		3回	10回 4回	区内の学校数は、小学校23校、中学校8校の合計31校あり、このうち、28校の最古建物が今後15年間で築50年を経過し老朽化が進行する。 一方、学校は、児童・生徒の学習の場及び生活の場としての安全・安心で快適な学習環境を確保し、教育内容・方法の多様化及び情報化や環境保護等の社会情勢の変化に対応して、生涯学習や地域活動等のまちづくりの拠点として開かれた学校とすることが求められている。

事業コスト

(単位:千円)

構成事務事業	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度 (計画)	重要度	今後の 注力度
西池袋中学校建て替え事業経費				300,783	A	拡充
直接事業費 計 A	0	0	0	300,783		
人件費 (正規職員数) (非常勤等職員数)	(0.6)	(0.5)	(0.6)	(1.1) (0.1)		
人件費 計 B	4,991	4,214	5,180	9,407		
支出 計 C=A+B	4,991	4,214	5,180	310,190		
収入 国庫(都)支出金 受益者負担分 その他						
収入計 D	0	0	0	0		
一般財源充当額 E=C-D	4,991	4,214	5,180	310,190		

現状の評価 A.予想を上回って達成した場合 B.大体計画どおりにできた場合 C.理想の状態を下回っている場合

評価の視点	達成度	達成度及び今後の課題についてのコメント
適切性 (満足度、サービス水準)	B	「西池袋中の改築等を考える会」から3月に基本構想(案)が区長へ提出された。今後は、基本構想(案)をもとに区としての基本設計をする必要がある。
効果性 (財務と施策水準の視点)	A	学校改築計画の前期では、旧真和中を解体し、仮校舎を建設後、改築小・中学校3校の仮校舎として有効活用する。
業務改善 (内部プロセスの視点)	B	新たに設立する「改築を考える会」については、「西池袋中学校の改築等を考える会」の進め方を検証し、効率的な方法で行いたい。
人材育成 (学習と成長の視点、人的資源の最大化)	B	地域と協働して、新しいものを創り上げていくために会議の進め方、問題のアプローチの方法などの研修に力を入れていく。

今後の取組みと予算への反映

	取組み内容	必要(不要)となる経費	影響額(千円)
重点・新規事項	学校改築計画の前期計画を実施するとともに、中期及び後期についても具体化していく必要がある	前期改築経費(事業費)	16,363,370
見直し事項	「西池袋中の改築等を考える会」の進め方を検証し、新たに設立する「改築を考える会」を効率的に運営する	0	0

総合評価

現状の評価	Ⓐ 成果をあげている B 普通 C 不十分
今後の事業の注力度	Ⓐ 拡充 B 継続 C 縮小
< 上記判断の理由と今後の改革方針 >	
<p>学校施設の老朽化は著しく、学校改築の推進は喫緊の課題である。現在取り組んでいる西池袋中学校は、今後30年続く学校改築の第一番目の学校である。事業の推進には課題も多いが、一つひとつ着実に解決し、当初の計画どおり進めていく。</p>	

点検・評価委員会の評価

評価の視点	意見
達成度指標の選定、目標値の設定の適切性	<p>・本事業は学校改築が緒についたばかりであり、今後事業の進捗に応じ、達成度指標を見直していく必要がある</p>
目標と今後の取り組みとの整合性	<p>・すべての学校に言えることであるが、学校施設の老朽化は著しく、保護者等の改築についての関心も高い。全小・中学校の改築時期を早急に明確化すべきである。</p>
現状の評価	<p>・計画に基づき、着実に学校改築を推進されたい。          ・中期・後期の学校については、既存の校舎を計画的に改修することで、教育環境の整備を進められたい。</p>
今後の事業の方向性	<p>・学校改築時期にあたっては、児童・生徒の通学における負担軽減や安全安心の観点から、仮校舎への通学を避け、隣接校を選択することが多くなることが予想される。極力影響がでないように、児童・生徒の負担増とならないように配慮すべきである。          ・保護者や児童・生徒が、学校施設の良否ではなく、魅力ある教育内容で学校を選択できるよう、教育内容の充実を図られたい。</p>
その他意見	<p>・老朽化した学校は早急にすべてを改築するのが基本的な考え方であり、そのために必要な予算の確保については担当課が断固としてあたるべきである。          ・全学校の改築は現実的でないとしても、トイレ改修など一定のコンセプトとアピール性をもった部分改修を当面全校一斉に行うなどの工夫を行い、施設面での学校間格差を緩和する努力も必要である。</p>